

今の子供たちの教育に欠けていること

- 辞書の引き方を身に付けよう -

開倫塾

塾長 林 明夫

1. はじめに

- (1) 開倫塾塾長の林明夫です。今朝も「開倫塾の時間」を聞いて頂いてありがとうございます。
- (2) 宇都宮大学工学部に工学研究科という大学院があり、私は、同大学の客員教授をさせていただいております。5月12日(月)に情報工学特論という授業を2コマやらせていただきました。大学院修士課程の学生が1学年約200名弱いらっしゃるうちの130名に、私の90分講義2コマを聞いていただきました。非常に熱心に聞いて頂き、大変ありがたく思いました。
- (3) 大学院と聞くと関心のある方が少ないかもしれませんが、現在の進学状況では、理系の半分以上の方が大学院に進学なさるそうです。また、工学部、理工学部、医学部などの進学率の高い学部では、ほぼ全員が修士課程、博士課程に進まれるそうです。
- (4) 今は、博士前期(昔の修士課程)と博士後期(昔の博士課程)とが一緒になり、大学院に5年間行かれる方が非常に多いです。

2. 辞書の引き方について

- (1) 本を読んだり、人の話を聞いたり、物事が分からない時に、昔の小・中学生、高校生、大学生はよく辞書を引きました。しかし、今の小・中学生、高校生、大学生は、あまり辞書を引かずに、語句の意味が分からないままで済ませている方が多いようです。今日は、今の子供たちに欠けている教育の一つである、辞書の引き方について、お話をさせていただきます。
- (2) 英語や国語などの語学に限らず、その他の科目でも、意味不明な語句があったら辞書を引いて確認し、ノートに書き写して、その意味をその都度暗記することが大事です。今の小・中学生、高校生、大学生は、ほとんどこの作業をしません。なぜなら、辞書を持っていないという根本的な問題があるからです。皆さんの中に、小・中学生、高校生、大学生のお子様をお持ちの方がいらっしゃいましたら、ぜひ辞書を買ってあげて下さい。また、もし使っていない辞書がありましたら、お子様にプレゼントしてあげて下さい。辞書を持たずに勉強する、授業に臨むことは、真剣勝負をするのに刀を持っていかないのと同じです。弁護士、検察官、裁判官が法廷に行くのに、六法全書を持っていかないのと同じ状況です。

(3)英語でしたら、英語の意味が日本語で書いてある英和辞書、日本語の意味が英語で書いてある和英辞典、もう少し勉強が進んだら、英語の意味が英語で書いてある英英辞典などを持たせていただけたらと思います。国語の場合は、語句の意味を調べる国語辞典、漢字の意味を調べる漢和辞典があります。また、古典を勉強する時には古語辞典があります。それぞれの科目に必要な辞書は持たせていただきたいと思います。

3. おわりに

(1)意味不明な言葉は必ず辞書を引き、意味を確認する。すると、いろいろな意味が出ています。その中から文脈に沿った適切な意味を推測することも大切です。たくさん意味がある時には、その中から本当にふさわしい意味を探し出して自分で考えるということは、大事な能力なのです。

(2)意味を調べた後は、語句とその意味をノートに書き写すように指導して下さい。その後は、書き写したものを音読したり、正確に書けるようになるまで書き取り練習することが大切です。

(3)英語について言うと、一つの単語の意味を調べて書き写し、練習をするだけでなく、できれば文全体を覚えることが大切です。日本人がなぜ英語が不得意かということ、単語のみを覚えたり書いたりするだけだからです。文全体を覚えていないので、会話が単語だけになってしまうのです。それですと、英語のレベルはあまり高くありません。きちんとした所で教育を受けていないということになってしまいます。ですから、できるだけ単語だけではなく文全体を覚えていただくことが大切です。

(4)今日は、今の教育に一番欠けている辞書の引き方のお話をさせて頂きました。ぜひ皆さんも分からない言葉がありましたら、お子様の前で辞書を引いてお手本を見せてあげて下さい。ぜひ皆さんのお力で、学校生活の間に辞書の引き方を身に付けさせて頂ければありがたく思います。どうぞよろしくお願いいたします。

以上